

所属・資格 英文学科・准教授

申請者氏名 前島 洋平

研究課題		1930年代の英国小説研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>①サマセット・モーム作品に描かれる病に関する研究—石塚久郎氏が『病短編小説集』(2016)の巻末で指摘しているように、「モームと医学の本格的研究はまだ手つかずのまま」(p.310)な状態が続いている。文学と病の関係を考察する研究が一般的となった現在、モーム作品についても同様の視点からの分析が求められる。しかし、モームの場合に少々注意が必要なのは、作家であると同時に医師免許も所持していたという点であり、世間一般の病に対する見方と医学的な見地とでは時に違いがあることも想定しておくべきであろう。平成30年度は研究対象をモームの短編・長編に絞り、病の視点から作品を横断的に考察し、その役割と意味を提示する。*国内にない資料については、英国・ロンドンの大英図書館、その他の大学図書館を利用する。</p> <p>②サマセット・モーム作品の映像化に関する研究—<i>Christmas Holiday</i> について映像化の問題を考察し、作品と映画それぞれの特徴を導き出す。*上映当時のレビューなど、日本国内にない資料については大英図書館等を利用して収集する。</p>
	研究の結果	<p>①に関しては、19世紀末から20世紀前半にかけて英国社会を騒がせた同性愛問題を切り口として、サマセット・モームに見られるオスカー・ワイルドの影響という視点で研究を進めた。研究成果の一端は、国際文化表現学会第14回大会におけるシンポジウム「結婚という制度」での発表へと実を結んだ(演題は「風俗喜劇作家としてのモームとワイルド—世紀末前後の英国社会と結婚の諸相—」)。サマセット・モームの『コンスタント・ワイフ』とオスカー・ワイルドの『理想の夫』という2つの風俗喜劇に見られる女性像と結婚観を検討し、前者には20世紀前半の英国における女性運動が大きな影響を及ぼしていることを指摘し、風俗喜劇作家の系譜にあるモームとワイルドの視座の違いを論じた。</p> <p>②については資料不足で研究が進まなかった。</p>
	研究の考察・反省	<p>①については、本年度の研究は「モームと医学の本格的研究」の第一歩にすぎず、今後の課題ばかりが残った。たとえば、モームに見られるワイルドの影響関係一つをとってみても、両者の他の演劇の比較検討が必要であるし、作品だけでなく両者の伝記などを通して、同性愛に関する考え方を改めて読み込むことも求められる。</p> <p>②については、大英図書館での資料収集を根気よく続けることで解決する見込みである。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>国際文化表現学会第14回大会 「風俗喜劇作家としてのモームとワイルド—世紀末前後の英国社会と結婚の諸相—」 (シンポジウム「結婚という制度」) 2018年5月12日/十文字学園女子大学(新座キャンパス)</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		